九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Research on the formation process of the domestic electric washing machine in Japan

林原, 泰子

https://doi.org/10.15017/459585

出版情報：九州大学, 2006, 博士（芸術工学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：

緒言

緒言

現代の生活様式について考える際，機械化について理解することは重要である。1940 年代後半に，S. ギーディオン[1] は，著書『機械化の文化史』[2] において「ものいわぬものの歴史」の重要性を説き，近代的な生活様式の形成過程を，機械化を中心とした「もの」の進化という視点から取り扱った[3]。彼はまず，時代ごとの生活様式が，政治的，経済的，社会学的傾向，更には，産業や発明，その他専門的な多くの分野を包括しながら形成されていくことを指摘している。その上で，歴史を構成する様々な断面を種々の資料から読み取り，統合された像として「もの」の上に反映させるという手法を試みた。過去・現在・未来を眺望し，今後の人間の進展のありかたを考えるにあたり，ひとつひとつはささやかに過ぎない「ものいわぬものの歴史」が，集合体として大きな意味を持つとする彼の論理は，非常に興味深いものである。しかしながら，このように「もの」を中心とし，背後の歴史や文化，技術革新の相互関係について考察するという手法は，これまで充分に検討されてきたとは言い難い。近年，学際的な視点が重要視されつつあるなかで，様々な分野を横に繋ぐ性格を持つ「ものいわぬものの歴史」を改めて見直すことは有意義であると考える。

ギーディオンによる研究の一部では，18 世紀のヨーロッパで始まり，19 世紀のアメリカにおいて積極的に進められた「家事の機械化」が取り扱われている[4]。機械化により，大幅な負担の軽減がなされた家事労働のひとつが洗濯であろう。重労働であるが故に，洗濯に際する労力の軽減が古くから熱望されてきたことは想像に難くない。実際にアメリカにおいては，18 世紀以降，家庭用洗濯機に関する膨大な数の特許が申請され続けており[5]，人々は期待を持って洗濯機を受容し続けてきたと考えられる。このことから，洗濯機の成立は「家事の機械化」における積極的な事例として，ひとつの指標となりうると考える。

日本において，第二次世界大戦後（以下，戦後）に電気洗濯機が急速に普及し，我々の生活に大きな影響を与えたことは良く知られている。家庭用電気洗濯機の国内普及率は，1970（昭和 45）年に 90％を超過し，2004（平成 16）年には 99.0％に達している[6]。もはや電気洗濯機は，近代的家庭生活に必要不可欠な「もの」であるといえるだろう。一方で，極めて身近な「もの」であるにも関わらず，洗濯機の成立については，これまで曖昧に扱われてきたという印象がある。第二次世界大戦以前（以下，戦前）に手動式洗濯機が存在したことや，アメリカからの技術導入により国産電気洗濯機製造が開始されたことが一部で知られてはいるものの，機械化の進展という視点から論じられる機会は少なく，成立段階についての検証も充分でない。現在の洗濯文化を考察し，今後のあり方を考えるにあたり，電気洗濯機成立の経緯を，成立以前の状況を踏まえた上で正確に把握することは重要であり，詳細な情報が今後益々必要とされる考えられる。

以上より，本論では日本における国産家庭用電気洗濯機の成立を中心とし，戦前の洗濯器具の進展について，様々な視点から「もの」としての歴史を中心に検討を行っていく。近代生活に必要不可欠である洗濯機について，国産化の経緯を明らかにすることで，現在の日本における生活様式，並びに近代的洗濯文化の成立について理解を深めるための手掛かりを提示していきたい。

註

1) ジークフリート・ギーディオン［Siegfried Giedion］(1894-4968)：「建築家・美術史家であると同時に，近代建築・デザイン運動の最も有力な理論家であり批評家である」（参考：後掲『機械化の文化史－ものいわぬものの歴史』，p. 699)

2) S. ギーディオン著・榮久庵祥二訳，『機械化の文化史－ものいわぬものの歴史』，鹿島出版会，1977［Macanization takes command, a contribution to anonymous history (Oxford University Press, 1948)］

3) 前掲『機械化の文化史－ものいわぬものの歴史』，pp. i-iv，pp. 3-10

4) この背景には，女性解放運動や家事の合理化に関する問題，電動機の発明を含む技術革新など複数の要因が存在する。（参考：前掲『機械化の文化史－ものいわぬものの歴史』，pp. 495-499)

5) 前掲『機械化の文化史－ものいわぬものの歴史』，pp. 529-530

6) 内閣府の消費動向調査によると，洗濯機の国内普及率は，2004（平成16）年までに99.0%に達している。同調査は1957（昭和32）年に都市部限定で開始され，1964（昭和39）年から全国的に実施された。都市部においては，1957（昭和32）年の20.2%から1963（昭和38）年の66.4%と，昭和30年代に電気洗濯機が急速に普及した様子が認められる。また，全国調査においても，1964（昭和39）年では61.4%の普及率であったものが，1970（昭和45）年には90%を超えるなど，短期間に飛躍的に普及した様子が確認できる。なお，2004（平成16）年３月までで洗濯機は調査対象品目を外れている。